

**令和2年度開講科目 講義シラバス**

**理学療法学科  
夜間コース3年生**

**学校法人 巨樹の会**

# 令和2年度 実施予定 カリキュラム

学校法人 巨樹の会 リハビリテーション学院・学校 【理学療法学科 夜間コース】

分野	教育内容	授 業 科 目	1 年		2 年		3 年		4 年		履修時間	履修単位	
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活	人文科学	心理学		30						30	2	
			基礎教養	30							30	2	
			対人関係演習Ⅰ	30							30	2	
			対人関係演習Ⅱ		30						30	2	
	自然科学	統計学					30				30	2	
		情報処理	30								30	2	
専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学	解剖学Ⅰ	30							30	2	
			解剖学Ⅱ		30						30	2	
		生理学	生理学Ⅰ	30							30	2	
			生理学Ⅱ		30						30	2	
		運動学	運動機能学Ⅰ	30							30	2	
			運動機能学Ⅱ		30						30	2	
	運動機能学演習		30						30	2			
	人間発達学	人間発達学			30					30	2		
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	臨床医学総論	医学概論		30						30	2	
			病理学概論			30					30	2	
		臨床医学各論	整形外科学			30					30	2	
			内科学			30					30	2	
神経内科学					30					30	2		
臨床心理学						30				30	2		
精神医学				30				30	2				
保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論・医学	リハビリテーションと理学療法	30							30	2		
専門分野	基礎理学療法学	理学療法学	基礎理学療法学		30						30	1	
			生活機能演習					30			30	1	
	臨床運動学	臨床運動学演習Ⅰ			30						30	2	
		臨床運動学演習Ⅱ					30				30	2	
	理学療法評価学	理学療法評価学	評価学演習Ⅰ	30							30	1	
			評価学演習Ⅱ		60						60	2	
			評価学演習Ⅲ			60					60	2	
	理学療法治療学	運動療法学	運動療法学演習			60					60	2	
			物理療法学			30					30	1	
		日常生活活動学	日常生活活動学演習Ⅰ			30					30	1	
			日常生活活動学演習Ⅱ			30					30	1	
		義肢装具学	義肢学				30				30	1	
			装具学					30			30	1	
		疾患別理学療法学	疾患別理学療法学	中枢神経系障害の理学療法学Ⅰ			60					60	2
				中枢神経系障害の理学療法学Ⅱ				60				60	2
				運動器系障害の理学療法学Ⅰ				60				60	2
				運動器系障害の理学療法学Ⅱ					60			60	2
	内部系障害の理学療法学Ⅰ						60				60	2	
内部系障害の理学療法学Ⅱ							60			60	2		
小児疾患の理学療法学				30				30	1				
理学療法技術演習Ⅰ	理学療法技術演習Ⅰ				30				30	1			
	理学療法技術演習Ⅱ					30			30	1			
理学療法総合学習	理学療法総合学習							60	60	2			
地域理学療法学	地域理学療法学	生活環境学				30				30	2		
		地域理学療法学演習					30			30	2		
臨床実習	臨床実習	臨床実習						810		810	18		
* 基礎分野: 講義15~30時間1単位 * 専門基礎分野: 講義・演習15~30時間1単位 実習30~45時間1単位 * 専門分野: 同上 * 臨床実習: 45時間1単位	基礎分野		120	30	30	0	0	30	0	0	210	14	
	専門基礎分野		120	150	150	60	0	0	0	0	480	32	
	専門分野(臨床実習を除く)		30	90	120	210	270	270	0	60	1050	39	
	臨床実習		0	0	0	0	0	0	810	0	810	18	
	前後期小計		270	270	300	270	270	300	810	60	2550	103	
前後期合計		540		570		570		870					

# I . 基礎分野

講義科目		統計学					
担当講師		藤本 一美			授業時間数	30	
開講年次		夜間コース	理学療法学科 3年後期	実務経験	病院において理学療法士として実務経験あり	単位数	2
教育目標 基礎的な統計処理を学習し、理学療法及び作業療法に必要な臨床研究の基礎を身につける。							
No.	講義計画	行動目標 (学習目標)					
1	オリエンテーション	①臨床研究のデザインと研究の信頼性を理解する。 ②統計の4つの尺度とその意味を理解する。					
2	偏差値	①偏差値とは何か ②標準偏差と編阿智の関係 ③正規分布					
3	有意水準と仮説検定	①有意水準と仮説検定 ②片側検定と両側検定					
4	割合の検定	①二項分布の正規近似 ②p値					
5	t検定	①母集団と標本、平均と分散 ②標準偏差と標準誤差 ③t値とt分布					
6	カイ2乗検定	①観測度数と期待度数 ②カイ2乗検定					
7	推定の考え方	①検定と推定の違い ②中心局限定理					
8	割合と平均値の区間推定	①信頼区間					
9	オッズ比とリスク比	①リスク比の信頼区間 ②オッズ比の信頼区間					
10	演習①	練習問題					
11	演習①	練習問題					
12	相関と回帰	①相関、回帰とは何か ②回帰直線の求め方					
13	感度と特異度	①検定の信頼性 ② $\alpha$ エラーと $\beta$ エラー ③感度と特異度					
14	統計の限界と誤用	①臨床的に重要とは何か ②定量的な判断					
15	まとめ	理解度にあわせて補足を行う。					
教科書	書籍名		著者	出版社	発行年		
	医療統計わかりません		五十嵐中, 佐條麻里著	東京図書	2015年		
参考図書等							
授業方法	統計学の基本的な内容の講義および統計処理の演習を行う。		成績評価方法	定期試験、提出課題、授業への取組み方を総合的に判断し、評価を行う			
履修上の注意	統計学は根拠に基づいた証明を実践するため必要不可欠で、科学的根拠に基づくりハビリテーションの基礎となる学問であり興味をもって臨むこと。√のついた計算機を用意すること。						

## II. 專門基礎分野

### Ⅲ. 理学療法学科 専門分野

講義科目		生活機能演習			
担当講師		峰 剛樹		授業時間数	30
開講年次		夜間コース	理学療法学科 3年後期	実務経験	病院において理学療法士として実務経験あり
教育目標		①医療福祉施設において情報収集及び生活場面の観察を専門的視点をもって実施できる。 ②対象者と適切なコミュニケーションを図ることができる。 ③情報収集及び観察内容を専門用語を用いて記録することができる。			
講義計画(講義内容を含む)					
1	オリエンテーション	①生活機能演習の概要及び体験実習の目的を理解する。 ②リハビリテーション対象者の生活場面の活動制限を理解する。			
2	生活機能の実際	①生活場面の観察のポイントを理解する。 ②情報収集の具体的方法を理解する。			
3	体験実習①	①対象者に関する情報収集を行い記録できる。 ②対象者の生活場면을観察し記録できる。 ③対象者に対するPT・OT介入の実際を理解する。			
4	体験実習②	①対象者に関する情報収集を行い記録できる。 ②対象者の生活場면을観察し記録できる。 ③対象者に対するPT・OT介入の実際を理解する。			
5	体験実習③	①対象者に関する情報収集を行い記録できる。 ②対象者の生活場면을観察し記録できる。 ③対象者に対するPT・OT介入の実際を理解する。			
6	体験実習④	①対象者に関する情報収集を行い記録できる。 ②対象者の生活場면을観察し記録できる。 ③対象者に対するPT・OT介入の実際を理解する。			
7	体験実習⑤	①対象者に関する情報収集を行い記録できる。 ②対象者の生活場면을観察し記録できる。 ③対象者に対するPT・OT介入の実際を理解する。			
8	体験実習⑥	①対象者に関する情報収集を行い記録できる。 ②対象者の生活場면을観察し記録できる。 ③対象者に対するPT・OT介入の実際を理解する。			
9	体験実習⑦	①対象者に関する情報収集を行い記録できる。 ②対象者の生活場면을観察し記録できる。 ③対象者に対するPT・OT介入の実際を理解する。			
10	体験実習⑧	①対象者に関する情報収集を行い記録できる。 ②対象者の生活場면을観察し記録できる。 ③対象者に対するPT・OT介入の実際を理解する。			
11	体験実習⑨	①対象者に関する情報収集を行い記録できる。 ②対象者の生活場면을観察し記録できる。 ③対象者に対するPT・OT介入の実際を理解する。			
12	体験実習⑩	①対象者に関する情報収集を行い記録できる。 ②対象者の生活場면을観察し記録できる。 ③対象者に対するPT・OT介入の実際を理解する。			
13	体験実習⑪	①対象者に関する情報収集を行い記録できる。 ②対象者の生活場면을観察し記録できる。 ③対象者に対するPT・OT介入の実際を理解する。			
14	体験実習⑫	①対象者に関する情報収集を行い記録できる。 ②対象者の生活場면을観察し記録できる。 ③対象者に対するPT・OT介入の実際を理解する。			
15	振り返りセミナー	①体験した症例の情報を整理し、生活機能全体の構造を検討する。			
教科書		書籍名		著者	出版社
特になし					
参考図書等					
授業方法		体験実習及び事前事後セミナーを実施		成績評価方法	体験実習での成績および提出物、演習への取り組みを総合的に評価
履修上の注意		医療福祉施設におけるリハビリテーション対象者の生活場面と関わり、傾聴と共感的な関係性を経験しPTOTとして対象者の生活状況を専門的視点で観察記録できるよう努めてください。			

講義科目		臨床運動学演習Ⅱ			
担当講師		峰 剛樹		授業時間数	30
開講年次		夜間コース	理学療法学科 3年後期	実務経験	病院において理学療法士として実務経験あり
教育目標		異常な活動・動作を分析し、問題点の理解を客観的に出来るようになることを目標とする。また、得られた測定結果に対して考察することが出来るようになることを目標とする。			
No.	講義計画	行動目標 ( 学 習 目 標 )			
1	異常姿勢・姿勢分析①	①疾患別の特徴的な姿勢を理解する。 ②疾患別の画像を観察し記載する。			
2	姿勢分析②	①観察した内容について考察し記載する。 ②観察した異常姿勢について説明する。(発表)			
3	運動器系疾患の歩行分析①	①運動器系疾患の歩行の特徴を考える。 ②運動器系疾患の歩行を観察する。 ③運動器系疾患の歩行を模倣する。			
4	運動器系疾患の歩行分析②	①運動器系疾患の歩行観察内容を記載する。 ②観察した異常歩行の原因について考察し記載する。			
5	運動器系疾患の歩行分析③	①観察した運動器系疾患の歩行について説明する。			
6	中枢神経系疾患の寝返り・起き上がりの動作分析①	①片麻痺患者の寝返り・起き上がりの特徴を考える。 ②片麻痺患者の寝返り・起き上がり動作を観察する。 ③片麻痺患者の寝返り・起き上がり動作を模倣する。			
7	中枢神経系疾患の寝返り・起き上がりの動作分析②	①片麻痺患者の寝返り・起き上がり動作を記載する。 ②観察した内容について考察し記載する。			
8	中枢神経系疾患の寝返り・起き上がりの動作分析③	①観察した寝返り・起き上がり動作について説明する。			
9	中枢神経系疾患の立ち上がり動作分析①	①片麻痺患者の立ち上がりの特徴を考える。④立ち上がり動作を記載する。 ②片麻痺患者の立ち上がり動作を観察する。 ③片麻痺患者の寝返り・起き上がり動作を模倣する。			
10	中枢神経系疾患の立ち上がり動作分析②	①観察した立ち上がり動作について説明する。			
11	中枢神経系疾患の歩行分析①	①中枢神経系疾患の歩行の特徴を考える。 ②中枢神経系疾患の歩行を観察する。 ③中枢神経系疾患の歩行を模倣する。			
12	中枢神経系疾患の歩行分析②	①中枢神経系疾患の歩行観察内容を記載する。 ②観察した内容について考察し記載する。			
13	中枢神経系疾患の歩行分析③	①観察した中枢神経系疾患の歩行について説明する。			
14	中枢神経系疾患の歩行分析④・まとめ	①観察した中枢神経系疾患の歩行について説明する。 ②まとめ			
15	基本動作・歩行振り返り	①運動器疾患・中枢神経系疾患の基本動作・歩行を確認する。			
教科書	書 籍 名		著 者	出 版 社	発 行 年
	臨床動作分析		高橋正明	医学書院	2001
参考図書等	動作分析臨床活用講座		石井慎一郎 月城慶一,他(訳)	ジカレビュー社 医学書院	2013 2005
	観察による歩行分析				
授業方法	講義と演習	成績評価方法	定期試験、提出課題、授業への取り組み方を総合的に判断し、評価を行う		
履修上の注意	演習を通して運動機能学への総合的理解が必要となります。しっかりと復習して下さい。				



講義科目		義肢学				
担当講師		岡本 伸弘		授業時間数	30	
開講年次		夜間コース	理学療法学科 3年前期	実務経験	病院において理学療法士として実務経験あり	
教育目標		義肢学では、切断患者のリハビリテーションの流れを理解するために、切断の原因、義肢の種類、義肢の適合および判定、そして装着訓練・管理方法を学ぶ。				
No.		講義計画				
		行動目標 (学習目標)				
1	切断と義肢の基礎知識①	①切断・離断とは ②義肢 ③骨格・殻構造 ④切断高位 ⑤上肢下肢の切断原因・発生率 ⑥切断術と処理 について理解する				
2	切断と義肢の基礎知識②	①切断術後のリハビリテーションの流れ ②術後管理 ③ベンチ・スタティック・ダイナミックアライメントの意義 について理解する				
3	大腿切断	①大腿義足ソケットの種類と特徴 ②膝継手の立脚相制御 ③膝継手の遊脚相制御 について理解する				
4	大腿切断	①膝離断の特徴・ソケット ②膝継手の種類・特徴 ③足継手の種類と特徴 ④大腿義足のベンチアライメント について理解する				
5	大腿切断・膝関節離断	①大腿義足のスタティック・ダイナミックアライメント ②異常姿勢・異常歩行 ③膝離断用義足のアライメント について理解する				
6	大腿切断の異常歩行	①異常姿勢・異常歩行 について理解する				
7	下腿切断	①下腿義足ソケットの種類と特徴 ②下腿義足のアライメント ③異常姿勢・異常歩行 について理解する				
8	サイム切断	①サイム義足ソケットの種類と特徴 ②サイム義足のアライメント について理解する				
9	片側骨盤切断・股関節離断	①股義足の種類と特徴 ②片側骨盤切除用義足の特徴 ③股継手の種類と特徴 について理解する				
10	股関節離断・足部切断	①股義足のアライメント ②足部切断の種類 ③足部部分義足の種類・特徴 について理解する				
11	下肢切断のリハビリテーション	①下肢切断に対する評価項目と意義 ②義足装着前理学療法項目と意義 ③切断原因疾患別にみた理学療法上の留意点 について理解する				
12	断端の合併症	①幻肢・幻肢痛・神経腫 ②幻肢・幻肢痛・神経腫に対する理学療法 ③切断高位で好発する拘縮 ④拘縮予防の理学療法 について理解する				
13	下肢切断のリハビリテーション	①義足装着理学療法項目と意義 ②歩行練習の流れ ③荷重練習の重要性 ④応用歩行 ⑤起居動作練習 について理解する				
14	上肢切断の特徴とリハビリテーション	①義手の機能的分類 ②手先具の種類と特徴 ③上肢切断に対する評価項目と意義 ④上肢切断に対する理学療法と意義 について理解する				
15	まとめ	①大腿切断の異常姿勢・異常歩行 ②下腿切断の異常姿勢・異常歩行 ③上肢切断について について理解する				
教科書		書籍名		著者	出版社	発行年
		切断と義肢		澤村 誠志	医歯薬出版	2007
参考図書等		15レクチャーシリーズ 義肢学		石川 朗	中山書店	2011
授業方法		講義及び実習	成績評価方法	定期試験、提出課題、授業への取り組み方を総合的に判断し、評価を行う		
履修上の注意		自分がもし四肢を失い義肢を装着したらどうなるか、ということについていつも想像しながら運動機能学・解剖学の知識を利用しながら学習して下さい。				

講義科目		装具学			
担当講師		吉澤 隆志		授業時間数	30
開講年次		夜間コース	理学療法学科 3年後期	実務経験	病院において理学療法士として実務経験あり
教育目標		装具学では、装具の種類、適応、そして適合を学び、更に対象者の運動能力や機能を理解した上で、必要な装具を選択できることを目標とする。			
No.		講義計画		行動目標 (学習目標)	
1	装具学総論	装具療法の目的や分類について理解する。 3点固定の原理と装具作製の流れについて理解する。 保険制度について理解する。			
2	下肢装具総論 短下肢装具(1)	下肢装具の分類と構成要素について理解する。 金属支柱付短下肢装具の構成要素について理解する。			
3	短下肢装具(2)	金属支柱付短下肢装具に用いられる足継手の種類・機能について理解する。 足継手機能に対する適応例(疾患・症状)について理解する。			
4	短下肢装具(3)	プラスチック短下肢装具の構成要素について理解する。 プラスチック短下肢装具の種類と適応について理解する。			
5	長下肢装具(1)	長下肢装具の基本的構造要素と種類について理解する。 長下肢装具に用いられる膝継手の種類・機能について理解する。			
6	長下肢装具(2) 免荷装具	長下肢装具の使用目的・効果について理解する。 PTB免荷装具の構造・機能・適応について理解する。 坐骨支持免荷装具の構造・機能・適応について理解する。			
7	股装具 膝装具	股装具の種類・構造・機能とその対象疾患について理解する。 膝装具の種類・構造・機能とその対象疾患について理解する。			
8	下肢装具のチェックアウト	下肢装具の適合を評価するために、チェックアウト項目とその方法を理解する。装具を装着し歩行など体験する。			
9	靴型装具と足底装具(1)	靴型装具を用いた理学療法が出来るようになるために、目的、基本的な構造や機能、各種補正について理解する。			
10	靴型装具と足底装具(2)	靴型装具を用いた理学療法が出来るようになるために、目的、基本的な構造や機能、各種補正について理解する。			
11	対麻痺用装具・ペルテス病用装具 先天性内反足用装具 先天性股関節脱臼用装具	小児疾患の病態と装具の関係性を理解する。			
12	体幹装具、側彎症装具(1)	体幹装具・側彎症装具それぞれの目的や対象疾患、基本的な構造や機能、種類について理解する。			
13	体幹装具、側彎症装具(2)	体幹装具・側彎症装具それぞれの目的や対象疾患、基本的な構造や機能、種類について理解する。			
14	上肢装具(1)	上肢装具の分類と目的、適応疾患、種類、基本的な構造・機能を理解する。			
15	上肢装具(2)	上肢装具の分類と目的、適応疾患、種類、基本的な構造・機能を理解する。			
教科書	書籍名		著者	出版社	発行年
	装具学 第4版		飛松好子、高嶋孝倫(編)	医歯薬出版	2013
参考図書等	15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 装具学		石川朗、佐竹将宏	中山書店	2013
授業方法	講義及び実習		成績評価方法	定期試験、提出課題、授業への取り組み方を総合的に判断し、評価を行う	
履修上の注意	実際の装具を手にし、授業の内容と照し合わせ、装具の目的を理解できるようになる。障害に応じた装具の選択肢を想起出来るようになるため、知識と想像力を深めてもらう。				

講義科目		中枢神経系障害の理学療法学Ⅱ				
担当講師		佐野 真由美		授業時間数	60	
開講年次		夜間コース	理学療法学科 3年前期	実務経験	病院において理学療法士として実務経験あり	
教育目標		中枢系障害の理学療法学Ⅰにて学習した内容を踏まえ、高次脳機能障害そして、頭部外傷、神経難病の理学療法学を理解する。				
No.	講義計画	行動目標(学習目標)	No.	講義計画	行動目標(学習目標)	
1	高次脳機能障害の総論	高次脳機能障害の概要、診察の実際、神経心理学検査について	16	パーキンソン病の予後について薬物療法	パーキンソン病の薬物療法について理解する。パーキンソン病の評価について理解する。	
2	高次脳機能障害の基礎知識	画像診断(脳葉の区分と溝・病巣)について	17	パーキンソン病の理学療法について	パーキンソン病の理学療法について理解する。	
3	失語・失読・失書について	失語・失読・失書の概要、リハビリテーションについて理解する。	18	パーキンソン病のADL指導について	パーキンソン病の基本動作やADL指導および家族指導について理解する。	
4	失行、行為・行動の障害について	失行、行為・行動の障害、リハビリテーションについて理解する。	19	運動失調症の病態について	小脳、前庭系、脊髄の構造と機能特性、運動失調の分類、伝導路について理解する。	
5	失認と関連症状について	失認と関連症状、リハビリテーションについて理解する。	20	運動失調症の病態について	運動失調の症状の特徴について理解する(片麻痺との違い)。	
6	半側空間無視について	半側空間無視の概要、評価、リハビリテーションについて理解する。	21	脊髄小脳変性症、多系統萎縮症の病態について	脊髄小脳変性症、多系統萎縮症の病態について理解する。目眩について理解する。	
7	病態失認・Pusher症候群について	病態失認・Pusher症候群の概要、リハビリテーションについて理解する。	22	小脳性運動失調の評価について	小脳性運動失調の評価について理解する。	
8	注意と注意障害について	注意の諸側面、臨床的検査、病巣、リハビリテーションについて理解する。	23	小脳性運動失調症の理学療法について	小脳性運動失調の理学療法について理解する。目眩の理学療法について理解する。	
9	記憶障害、遂行機能障害について	記憶の分類、検査、病巣、リハビリテーションについて理解する。遂行機能障害の概要を理解する。	24	小脳性運動失調症のADL指導について	小脳性運動失調の基本動作やADL指導および家族指導について理解する。	
10	認知症、せん妄について	認知症の概要、病型、リハビリテーションを理解する。	25	筋萎縮性側索硬化症の病態について	筋萎縮性側索硬化症の病態、進行の仕方、予後、症状について理解する。	
11	頭部外傷の病態について	頭部外傷(頭蓋損傷、局所性脳損傷、びまん性軸索損傷)の病態について理解する。	26	筋萎縮性側索硬化症の理学療法について	筋萎縮性側索硬化症の障害像、評価、リスク管理、理学療法について理解する。	
12	外傷性脳損傷による高次脳機能障害について	外傷性脳損傷による高次脳機能障害について理解する。	27	ギラン・バレー症候群の理学療法について	ギラン・バレー症候群の病態・評価、リスク管理、理学療法について理解する。	
13	頭部外傷の理学療法について	頭部外傷の理学療法について理解する。	28	多発性硬化症の病態・理学療法について	多発性硬化症の病態、障害像、評価、リスク管理、理学療法、予後について理解する。	
14	パーキンソン病の病態について	パーキンソン病の原因、病態生理、主症状を理解する。	29	その他の疾患について	重症筋無力症・多発性筋炎・多発性皮膚炎について理解する。	
15	パーキンソン病の予後について	パーキンソン病のADLおよび予後と経過を理解する。 (Hoehn-Yahrの重症度分類)	30	まとめ	高次脳機能障害、神経難病、他の中枢系障害の理学療法学Ⅱをまとめる	
教科書	書籍名		著者		出版社	発行年
	ビジュアル実践リハ 脳・神経系リハビリテーション 高次脳機能障害学 第2版 病気が見える7(脳・神経)		潮見 泰藏 石合 純夫 医療情報科学研究所		羊土社 医歯薬出版 MEDICAL VIEW	2012 2012 2014
参考図書等	標準理学療法学・作業療法学 神経内科学 PT・OTのための画像のみかた 日常生活活動(ADL)第2版		川平和美 山下 敏彦 監修 千住 秀明		医学書院 金原出版 神陵文庫	2013 2016 2007
	授業方法	講義および演習	成績評価方法	定期試験、提出課題、授業への取り組み方を総合的に判断し、評価を行う		
履修上の注意	覚えることが多いので、しっかり予習・復習すること。					

講義科目		運動器系障害の理学療法学 I						
担当講師		中元 修		授業時間数	60			
開講年次	夜間コース	理学療法学科	3年前期	実務経験	病院において理学療法士として実務経験あり			
教育目標		運動器障害を生じる主な疾患の病態・症状・疫学・予後・一般的治療および理学療法への展開について学ぶ。代表的な骨関節疾患を理解するとともに、それに応じた理学療法を理解する。						
No.	講義計画	行動目標(学習目標)		No.	講義計画	行動目標(学習目標)		
1	骨関節 外傷総論	骨折・脱臼・捻挫・靭帯損傷について理解する		16	変形性関節症①	変形性関節症の病態・症状・画像所見とリスク管理について理解する		
2	骨粗鬆症と高齢者の骨折	骨粗鬆症について理解する 高齢者の身体特性と骨折の特徴を理解する		17	変形性関節症(股関節①)	変形性股関節症の保存的治療と理学療法を理解する		
3	下肢の整形外科疾患総論(股関節)	股関節の解剖学、運動学的特徴について理解する		18	変形性関節症(股関節②)	人工股関節置換術後の理学療法を理解する		
4	下肢の骨折①	大腿骨近位部骨折の特徴、病態把握、問題点を理解する		19	変形性関節症(股関節③)	人工股関節置換術後の理学療法とADL指導を理解する		
5	下肢の骨折②	大腿骨近位部骨折の画像所見と治療・リスク管理を理解する		20	下肢の整形外科疾患総論(膝関節)	膝関節の解剖学、運動学的特徴について理解する		
6	下肢の骨折③	大腿骨近位部骨折の理学療法を理解する		21	変形性関節症(膝関節①)	変形性膝関節症の保存的治療と理学療法を理解する		
7	下肢の骨折④	大腿骨近位部骨折患者のADL指導を理解する		22	変形性関節症(膝関節②)	人工膝関節置換術後の理学療法とADL指導を理解する		
8	下肢の骨折⑤	骨盤骨折、膝蓋骨骨折、脛骨高原骨折、脛骨天蓋骨折など下肢の骨折について理解する。		23	膝関節疾患①	半月板損傷の病態・症状・画像所見と治療法、理学療法を理解する。		
9	上肢の骨折①	上腕骨の基礎解剖を理解する。 上腕骨近位端骨折の病態、分類、症状、画像所見を理解する。 上腕骨近位端骨折の治療を理解する。		24	膝関節疾患②	膝関節靭帯損傷の病態・症状・画像所見と治療法を理解する。		
10	上肢の骨折②	上腕骨近位端骨折の理学療法、リスク管理を理解する。		25	膝関節疾患③	前十字靭帯と後十字靭帯再建術後の理学療法を理解する		
11	上肢の骨折③	上腕骨骨幹部骨折、上腕骨遠位端骨折の病態、症状、画像所見と治療法、理学療法を理解する。		26	下肢の整形外科疾患総論(足関節)	足関節の解剖学、運動学的特徴について理解する		
12	上肢の骨折④	橈骨遠位端骨折、前腕骨骨折、手指骨折など上肢の骨折について理解する。		27	足関節疾患	アキレス腱損傷 足関節捻挫の病態・症状と治療法・理学療法について理解する		
13	肩関節疾患①	①肩関節の構造と機能を理解する ②肩関節の障害を理解する		28	骨端症	骨壊死の分類について理解する。 骨壊死の疫学特徴について理解する。		
14	肩関節疾患②	①肩関節周囲炎の病態を把握する。 ②肩関節不安定症の病態を把握する。 ③腱板損傷の病態を把握する。		29	スポーツ傷害①	スポーツ外傷・障害の病態を理解する スポーツ外傷・障害の理学療法を理解する		
15	肩関節疾患③	①肩関節疾患の評価を理解する ②肩関節疾患の理学療法プログラムを理解する		30	スポーツ傷害②	テーピング(膝・足関節)を理解する		
教科書	書籍名		著者		出版社		発行年	
	シンプル理学療法シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト 整形外科術後理学療法プログラム		細田多穂 島田洋一・高橋仁美		南江堂 MEDICAL VIEW		2011 2014	
参考図書等	PT・OTのための画像のみかた 標準整形外科学		山下 敏彦 監修 松野丈夫		金原出版 医学書院		2016 2014	
授業方法	講義および実技を用いたグループワークを行う。			成績評価方法	定期試験、提出課題、授業への取り組み方を総合的に判断し、評価を行う			
履修上の注意	解剖学、運動機能学の基礎知識の復習を行い、受講することが望ましい。							

講義科目		運動器系障害の理学療法学Ⅱ						
担当講師		岡本 伸弘			授業時間数	60		
開講年次		夜間コース	理学療学科	3年後期	実務経験	病院において理学療法士として実務経験あり		
教育目標		骨関節障害を生じる主な疾患の病態・症状・疫学・予後・一般的治療および理学療法への展開について学ぶ。代表的な骨関節疾患を理解するとともに、それに応じた理学療法を理解する。						
No.	講義計画	行動目標（学習目標）		No.	講義計画	行動目標（学習目標）		
1	慢性疼痛疾患	①疼痛のメカニズムおよび急性痛と慢性痛を理解する。②評価と理学療法を理解する。③CRPSの病態と分類を理解する。		16	脊椎疾患⑥	①腰椎疾患の評価を理解する ②腰椎疾患の理学療法プログラムを理解する		
2	関節リウマチ①	関節リウマチの病態・画像所見や症状特徴的な変形を理解する		17	脊椎疾患術後の理学療法	①術後の理学療法を理解する		
3	関節リウマチ②	関節リウマチの診断基準や評価を理解する		18	腰痛疾患の理学療法	①理学療法を実際に体験する ②ADL指導を理解する		
4	関節リウマチ③	関節リウマチの治療および理学療法を理解する		19	脊髄損傷①	①脊髄の解剖を理解する ②脊髄損傷の概論を理解する		
5	関節リウマチ④	関節リウマチ患者のADL指導を理解する		20	脊髄損傷②	①完全損傷と不全損傷を理解する		
6	末梢神経障害①	①末梢神経の構造と機能を理解する ②末梢神経障害の病態と分類を理解する		21	脊髄損傷③	①合併症を理解する		
7	末梢神経障害②	腕神経叢および顔面神経の末梢神経障害を理解する。		22	脊髄損傷④	①評価(Frankel分類・Zancolliの分類・ASIA)を理解する		
8	末梢神経障害③	上肢の末梢神経障害を理解する(橈骨神経、尺骨神経、正中神経麻痺)		23	脊髄損傷⑤	①頸髄損傷について理解する		
9	末梢神経障害④	下肢の末梢神経障害を理解する(坐骨神経麻痺、大腿神経麻痺、脛骨神経麻痺、腓骨神経麻痺)		24	脊髄損傷⑥	①胸髄損傷について理解する ②腰髄損傷について理解する		
10	末梢神経障害⑤	①末梢神経障害の評価を理解する ②末梢神経障害の理学療法プログラムを理解する		25	脊髄損傷⑦	①残存レベル別理学療法を理解する		
11	脊椎疾患①	①脊椎の構造と機能を理解する ②脊髄の構造と機能を理解する ③脊髄神経の構造と機能を理解する		26	脊髄損傷⑧	①頸髄損傷者の理学療法を実際に体験する		
12	脊椎疾患②	脊椎圧迫骨折、脊柱側弯症の病態、画像所見と理学療法を理解する		27	脊髄損傷⑨	①胸・腰髄損傷者の理学療法を実際に体験する		
13	脊椎疾患③	頸椎症、頸椎椎間板ヘルニアの病態、画像所見と理学療法を理解する		28	脊髄損傷⑩	①ADL指導を理解する		
14	脊椎疾患④	①頸椎疾患の評価を理解する ②頸椎疾患の理学療法プログラムを理解する		29	脊髄損傷⑪	①ADL指導を理解する		
15	脊椎疾患⑤	腰椎椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症の病態、画像所見と理学療法を理解する		30	熱傷	①病態を理解する ②評価を理解する		
教科書	書籍名		著者		出版社		発行年	
	シンプル理学療法シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト 脊髄損傷の理学療法 整形外科術後理学療法プログラム		細田多穂 武田 功 島田洋一・高橋仁美		南江堂 医歯薬出版 MEDICAL VIEW		2011 2008 2014	
参考図書等	ここがポイント 整形外科疾患の理学療法 改訂第2版 動画で学ぶ脊髄損傷のリハビリテーション 標準整形外科学 第11版		富士武史 田中宏太佳・園田茂 内田淳正		金原出版 医学書院 医学書院		2007 2010 2011	
	授業方法	講義、グループワーク、実技を交えて実施する。		成績評価方法	定期試験、提出課題、授業への取り組み方を総合的に判断し、評価を行う			
履修上の注意	解剖学、運動機能学の基礎知識の復習を行い、受講することが望ましい。							

講義科目		内部系障害の理学療法学 I					
担当講師		石掛 陽介			授業時間数	60	
開講年次		夜間コース	理学療法学科 3年前期	実務経験	病院において理学療法士として実務経験あり	単位数	2
教育目標		代謝疾患および循環器疾患の発生機序とその障害像を把握した上で、それに応じたリハビリテーションの流れおよび理学療法を理解する。					
No.	講義計画	行動目標(学習目標)		No.	講義計画	行動目標(学習目標)	
1	内部障害の理学療法とは	①内部障害とは何かを理解する。 ②内部障害の理学療法における概要を知る。		16	虚血性心疾患の病態、診断、治療	①虚血性心疾患の概念、病態、分類、心電図所見、検査所見、診断、治療を理解する。	
2	代謝と栄養	①栄養と代謝の概要を理解する。 ②糖質代謝とエネルギー産生を理解する。		17	心不全の病態、診断、治療	①心不全の概念、病態、分類、検査所見、診断、治療を理解する。	
3	メタボリックシンドロームの理学療法①	①メタボリックシンドロームの定義、診断、治療を理解する。		18	心臓リハビリテーション総論	①心臓リハビリテーション目的と意義、流れを理解する。②一次救命処置の手技が行える。	
4	メタボリックシンドロームの理学療法②	②メタボリックシンドロームの理学療法評価、理学療法介入を理解し、実践する。		19	循環器疾患の理学療法評価①	①診療録(カルテ)や記録から心機能に関連する情報を抽出できる。	
5	糖尿病の病態、分類、診断、治療	①糖尿病(DM)の現状(疫学)、病態、分類、診断、治療を理解する。		20	循環器疾患の理学療法評価②	②検査所見から重症度と心機能推察(リスク層別化)ができる。③運動機能が評価できる。	
6	糖尿病の合併症と治療	①DMの三大合併症を理解する。 ②DMの三大療法を理解する。		21	循環器疾患の理学療法評価③	④循環器疾患患者の理学療法評価を要約することができる。	
7	糖尿病の理学療法①	①持久力増強運動のFITTの原則を理解する。 ②DMの理学療法評価を理解する。		22	循環器疾患の理学療法①	①循環器疾患患者に対する理学療法介入の要点を理解する。	
8	糖尿病の理学療法②	③DMの理学療法を理解する。 ④DMのリスクを想定する。		23	循環器疾患の理学療法②	②リスク層別化に基づく、運動開始の判断、バイタルサインと生体反応の監視の要点を理解する。	
9	循環器系の解剖学・生理学	①心臓の構造と機能を理解する。 ②循環の基礎事項を理解する。		24	循環器疾患の理学療法③	③不良反応が出現した際に適切な処置ができる。	
10	運動耐容能とその評価①	①循環器系の調節機構、運動耐容の概要を理解する。 ②運動の循環反応を述べる。		25	大動脈疾患の病態と理学療法	①大動脈疾患の病態、診断、治療を理解する。②大動脈疾患の理学療法、リスクを理解する。	
11	運動耐容能とその評価②	③運動耐容能を評価する。 ④運動処方を実際を理解する。		26	心臓弁膜疾患の病態と理学療法	①心臓弁膜疾患の病態、診断、治療を理解する。②心臓弁膜疾患の理学療法、リスクを理解する。	
12	心電図の診かた①	①心電図の基本波形を理解する。 ②心電図の記録法を理解する。		27	末梢動脈・静脈疾患、リンパ系疾患の病態と理学療法	①末梢静脈・リンパ系疾患の病態を理解する。②末梢静脈・リンパ系疾患の理学療法を理解する。	
13	心電図の診かた②	③モニター心電図を理解する。 ④ホルター心電図を理解する。 ⑤心電図と循環との関係を知る。		28	腎疾患の病態、検査	①腎疾患の病態、治療を理解する。	
14	不整脈の診かた①	①心房細動、心房粗動、心室細動、心室頻拍、期外収縮、房室ブロック、脚ブロックを理解する。		29	腎疾患の治療、理学療法	②腎疾患の理学療法、リスクを理解する。	
15	不整脈の診かた②	①WPW症候群、発作性上室頻拍、洞機能不全症候群、洞房ブロック、人工ペースメーカーを理解する。		30	循環・代謝機能障がい者に対する教育、まとめ	①循環・代謝障がい者に対する助言・教育を理解する。②循環・代謝障がいの理学療法をまとめる。	
教科書	書籍名		著者		出版社	発行年	
	理学療法テキスト 内部障害理学療法学 循環・代謝 内部障害理学療法テキスト 改定第2版		石川 朗 細田 多穂		中山書店 南江堂	2010 2012	
参考図書等	病気が見える 循環器疾患		岡庭 豊		MEDIC MEDIA	2010	
	フィジカルアセスメント徹底ガイド 循環 心電図のABC		高橋 仁美 五島 雄一郎		中山書店 日本医師会	2011 1999	
授業方法	講義を主体として演習も一部取り入れる。		成績評価方法	定期試験、提出課題、授業への取り組み方を総合的に判断し、評価を行う			
履修上の注意	予習・復習を行い、多い情報量を記憶に定着させるような努力を必要とする。						

講義科目		内部系障害の理学療法学Ⅱ				
担当講師		吉田 修一		授業時間数	60	
開講年次		夜間コース	理学療法学科 3年後期	実務経験	病院において理学療法士として実務経験あり	
教育目標		呼吸器疾患および悪性腫瘍の発生機序とその障害像を把握した上で、それに応じたリハビリテーションの流れおよび理学療法を理解する。				
No.	講義計画	行動目標(学習目標)	No.	講義計画	行動目標(学習目標)	
1	呼吸理学療法総論	運動と呼吸・循環反応の関係、呼吸不全の定義、呼吸の概念と呼吸リハの必要性について理解する。	16	呼吸器疾患の理学療法基本手技④	徒手的な呼吸介助手技の実施を経験する(パニックコントロールを含む)。	
2	呼吸器系の解剖学	呼吸器系の構造、胸郭の構造、呼吸運動に関する筋について理解する。	17	酸素療法と呼吸理学療法	酸素療法の意義、目的、効果、適応、合併症、在宅酸素療法の流れについて理解する。	
3	呼吸器系の運動学	呼吸運動に伴う胸郭の運動について理解する。	18	人工呼吸療法と呼吸理学療法	人工呼吸の目的、効果、人工呼吸器の構造、基本モード、管理中の呼吸理学療法について理解する。	
4	呼吸器系の生理学	呼吸の役割、換気とガス交換、気道抵抗、コンプライアンスについて理解する。	19	急性・慢性呼吸不全の理学療法	急性・慢性呼吸不全の疾患、病態、外科術後の生体反応、呼吸理学療法の目的、効果について理解する。	
5	動脈血液ガス検査	動脈血ガス目的、意義、基準値、動脈血酸素可能、換気能の指標を理解する。	20	慢性閉塞性肺疾患(COPD)の呼吸理学療法	慢性閉塞性肺疾患の病態、障害像(問題点)、呼吸理学療法の流れについて理解する。	
6	呼吸不全の病態と呼吸器疾患	呼吸不全、酸素化不全と換気不全、急性呼吸不全と慢性呼吸不全、代表的疾患について理解する。	21	吸引の概念と理論	吸引の目的、意義、適応、生体に与える影響、標準予防策について理解する。	
7	呼吸器疾患別動脈血液ガス検査	代表的呼吸器疾患の動脈血ガスの特徴、分析値の解釈、臨床病態の推測について理解する。	22	吸引演習	吸引の実施に至るまでの流れ、基本的な手順を理解し、状況に応じて実施を経験する。	
8	呼吸器疾患の理学療法評価①	肺機能検査の目的、意義、適応、疾患別特徴について理解し、実施を経験する。	23	呼吸器疾患の解釈と統合①	慢性閉塞性肺疾患の病態像を想定し、それらに必要な検査・測定、優先性、結果と解釈を理解する。	
9	呼吸器疾患の理学療法評価②	医療面接(病歴聴取・問診)、フィジカルアセスメント(視診、触診、打診、聴診)について理解する。	24	呼吸器疾患の解釈と統合②	慢性閉塞性肺疾患の病態像を想定し、それらに必要な検査・測定、優先性、結果と解釈を理解する。	
10	呼吸器疾患の理学療法評価③	運動負荷試験の目的、意義、適応、ADL・QOL評価、画像所見、情報収集について理解する。	25	呼吸器疾患の解釈と統合③	慢性閉塞性肺疾患の病態像を想定し、それらに必要な検査・測定、優先性、結果と解釈を理解する。	
11	呼吸器系の運動生理学①	運動時の呼吸反応、ガス交換比の変化、内分泌・代謝の生体反応について理解する。	26	呼吸器疾患の解釈と統合④	慢性閉塞性肺疾患を想定し、結果を統合して、問題点、目標設定、治療介入手段、予後予測を理解する。	
12	呼吸器系の運動生理学②	運動の生理学的効果、持久力向上のメカニズム、最大酸素摂取量と運動療法について理解する。	27	呼吸器疾患の解釈と統合⑤	慢性閉塞性肺疾患を想定し、結果を統合して、問題点、目標設定、治療介入手段、予後予測を理解する。	
13	呼吸器疾患の理学療法基本手技①	コンディショニングの目的、具体的方法、効果について理解し、実施する。	28	悪性腫瘍の概念と検査、進行、病期、ステージ	悪性腫瘍の概念、原因、分類、血液検査、画像検査、内視鏡検査、病理検査について理解する。	
14	呼吸器疾患の理学療法基本手技②	運動療法の意義、運動処方(FITT)、具体的方法、効果について理解する。	29	悪性腫瘍の治療(緩和ケア含む)と理学療法	手術・放射線・化学療法、理学療法の目的・目標、緩和ケアの概要、理学療法について理解する。	
15	呼吸器疾患の理学療法基本手技③	呼吸介助の目的、効果、排痰の目的、効果、排痰に必要な要素(物理的因子など)について理解する。	30	内部系障害の理学療法学Ⅱのまとめ	呼吸器、がんについての知識を振り返り、理解を深める。	
教科書	書籍名		著者		出版社	発行年
	理学療法テキスト 内部障害理学療法学 呼吸内部障害理学療法テキスト 改定第2版		玉木 彰 細田 多穂		中山書店 南江堂	2010 2012
参考図書等	標準理学療法学 内部障害理学療法学		吉尾 雅春、高橋 哲也		医学書院	2013
	動画でわかる 呼吸リハビリテーション		高橋仁美、宮川哲夫、塩谷隆信		中山書店	2012
	ゴールドマスターテキスト 内部障害系理学療法学		柳澤 健		メディカルビュー	2010
授業方法	講義を主体として演習も一部取り入れる。		成績評価方法	定期試験、提出課題、授業への取り組み方を総合的に判断し、評価を行う		
履修上の注意	予習・復習を行い、多い情報量を記憶に定着させるような努力を必要とする。					

講義科目		理学療法学技術演習 I			
担当講師		峰 剛樹		授業時間数	30
開講年次	夜間コース	理学療法学科	3年前期	実務経験	病院において理学療法士として実務経験あり
教育目標		これまで学内で履修した知識と技術の統合を図り、臨床実習で必要となる全体像を把握する能力や臨床的意思決定能力などを育成するために、骨関節疾患を題材として、評価から治療プログラム作成までの一連の理学療法行為を段階的に学ぶ。			
No.	講義計画	行動目標 ( 学習目標 )			
1	オリエンテーション	理学療法の過程、思考過程を理解する。			
2	疾患理解	大腿骨頸部骨折の病態を理解し、問題となる生活動作を推測する。			
3	必要な評価項目	大腿骨頸部骨折の病態を理解した上で評価の意義目的を考え、必要な評価項目を列挙する。			
4	症例提示	提示された症例情報をもとに、問題点を整理する。			
5	病態想起 1	症例情報を基に挙げた問題点から、生活像をイメージし問題点の優先順位を考え、仮説を立案する。			
6	結果の解釈 1	必要な評価の意義・目的を文章化し、その結果と日常生活上の動作との繋がりを考え、その原因や根拠を理解する。			
7	結果の解釈 2	解釈した内容をディスカッションし、統合記録にまとめる。			
8	統合作業 1	参加、活動、身体機能・身体構造の否定的因子や肯定的因子を挙げ、提示症例の最終的な生活像を総合的に考える。			
9	統合作業 2	提示症例の生活像について考えたことをディスカッションし文章化する。			
10	問題点の抽出とゴール設定 1	提示症例の全体像・問題点を整理し、目標設定を考える。			
11	問題点の抽出とゴール設定 2	提示症例の全体像・問題点を整理し、目標設定を考える。			
12	治療プログラム作成 1	ゴール達成のための治療を考える			
13	理学療法評価の実施 1	提示症例に対してのリスクをふまえ、理学療法評価を実施する。			
14	理学療法評価の実施 2	立案した治療プログラムを実施する。			
15	まとめ	まとめ			
教科書	書籍名		著者	出版社	発行年
	指定しない。				
参考図書等	書籍名		著者	出版社	発行年
	指定しない。				
授業方法	講義、グループワーク、実技		成績評価方法	定期試験80点 提出物・授業態度20点	
履修上の注意	評価学で学んできたことを提示症例を用いて、統合していく学習を行うので、評価学の復習を事前に行っておくこと。また、疾患像に関しても他科目と並行して理解に努めること。				



講義科目		理学療法学技術演習Ⅱ			
担当講師		峰 剛樹		授業時間数	30
開講年次	夜間コース	理学療法学科	3年後期	実務経験	病院において理学療法士として実務経験あり
教育目標		これまで学内で履修した知識と技術の統合を図り、臨床実習で必要となる全体像を把握する能力や臨床的意思決定能力などを育成するために、中枢神経系疾患を題材として、評価から治療プログラム作成までの一連の理学療法行為を段階的に学ぶ。			
No.	講義計画	行動目標（学習目標）			
1	疾患理解	脳血管障害の病態を理解し、問題となる生活動作を推測する。			
2	必要な評価項目	脳血管障害の病態を理解した上で評価の意義目的を考え、必要な評価項目を列挙する。			
3	症例提示	提示された症例情報をもとに、問題点を整理する。			
4	病態想起1	動画を基に観察した内容と提示された症例情報を整理する。			
5	病態想起2	動画を基に観察した内容と提示された症例情報をもとに生活像をイメージし問題点の優先順位を考え、仮説を立案する。			
6	結果の解釈1	必要な評価の意義・目的を考え文章化し、その結果の解釈を考える。			
7	結果の解釈2	評価結果に対する解釈を文章化する。			
8	統合作業1	参加、活動、身体機能・身体構造の否定的因子や肯定的因子を挙げ、提示症例の最終的な生活像を総合的に考える。			
9	統合作業2	提示症例の生活像について考えたことを文章化する。			
10	問題点の抽出とゴール設定1	提示症例の全体像・問題点を整理し、目標設定を考える。			
11	問題点の抽出とゴール設定2	提示症例の全体像・問題点を整理し、目標設定を考える。			
12	治療プログラム作成	ゴール達成のための治療を考える			
13	理学療法評価の実施1	提示症例に対してのリスクをふまえ、理学療法評価を実施する。			
14	理学療法評価の実施2	立案した治療プログラムを実施する。			
15	まとめ	脳血管障害の病態を理解し、評価から治療プログラム立案までの臨床思考過程を整理する。			
教科書	書籍名		著者	出版社	発行年
	指定しない。				
参考図書等	指定しない。				
授業方法	講義、グループワーク、実技		成績評価方法	定期試験80点 提出物・授業態度20点	
履修上の注意	評価学で学んできたことを呈示症例を用いて、統合していく学習を行うので、評価学の復習を事前に行っておくこと。また、疾患像に関しても他科目と並行して理解に努めること。				

講義科目		生活環境学				
担当講師		長嶺 翔吾			授業時間数	30
開講年次		夜間コース	理学療法学科	3年前期	実務経験	病院において理学療法士として実務経験あり
					単位数	2
教育目標		障害や各福祉用具の特徴を理解した上で、生活環境の評価と住環境整備の流れを理解する。				
No.	講義計画	行動目標（学習目標）				
1	生活環境学とは	ICFにおける生活機能と環境因子におけるひと・もの・空間のつながりについて理解する。				
2	法的・制度的環境	社会保障制度と介護保険制度の概要について理解する。				
3	関連制度	ハートビル法、交通バリアフリー法、バリアフリーデザイン、ユニバーサルデザインについて理解する。				
4	生活とROM、日常生活上の注意点	①ADLに影響を及ぼすROM制限について理解する。 ②ROM制限がある場合のADL上の工夫について理解する。				
5	住環境整備の流れ、対策について	住環境整備の意義、流れ、基本視点について理解する。				
6	住環境整備の流れ、対策について	段差解消、手すりの設置、通行幅・スペース、建具の種類について理解する。				
7	部屋別アプローチ①	アプローチ、玄関、廊下、寝室の住宅改修について理解する。				
8	部屋別アプローチ②	脱衣場、洗面所、浴室、トイレ、階段の住宅改修について理解する。				
9	福祉用具について	福祉用具の概念と定義、種類、選定について理解する。 または、福祉機器展へ参加する。				
10	福祉用具について	福祉用具の概念と定義、種類、選定について理解する。 または、福祉機器展へ参加する。				
11	介護保険と住環境整備	介護保険を利用した住宅改修と福祉用具の利用について理解する。				
12	障害別住宅改修について	①脳卒中患者の住環境整備について ②脊髄損傷者の住環境整備について ③PD患者の住環境整備について				
13	事例検討①	環境整備によって生活上の問題を解消する流れを考える。				
14	事例検討②	環境整備によって生活上の問題を解消する流れを説明できる。				
15	まとめ	まとめ				
教科書	書籍名		著者		出版社	発行年
	理学療法テキストX 生活環境論		千住 秀明 監修		神陵文庫	2006
参考図書等						
授業方法	講義、演習、グループワークを実施		成績評価方法	定期試験、提出課題、授業への取り組み方を総合的に判断し、評価を行う		
履修上の注意	教科書をもとに授業内容の予習に努めること。					

講義科目		地域理学療法学演習			
担当講師	中崎 満			授業時間数	30
開講年次	夜間コース	理学療法学科	3年後期	実務経験	病院において理学療法士として実務経験あり
教育目標		1. 地域リハビリテーションにおける社会制度を説明できる。 2. 地域リハビリテーションにおける理学療法士の役割について説明できる。 3. 地域リハビリテーションに関わる他職種のサービスについてその概略を説明できる。			
No.	講義計画	行動目標 (学習目標)			
1	地域リハビリテーションの概念	①地域リハビリテーションの歴史を学び、考え方や定義を説明できる。 ②地域リハビリテーションの範疇(地域の捉え方)を説明できる。 ③地域包括ケアの概念を知る。			
2	地域理学療法の概念	①3つの保健医療圏を理解する。 ②地域理学療法の役割と連携の重要性を理解する。 ③生活行為向上マネージメントの重要性を理解する。			
3	社会保障制度について	①社会保障制度の意味を理解する。 ②社会保障制度の変遷を理解する。			
4	地域の社会資源について	①フォーマル、インフォーマルな社会資源の意味を理解する。 ②サービス提供主体による社会資源の分類を知る。 ③社会資源に関する諸制度を知る(医療、介護、障がい)。			
5	地域理学療法の関連法規 ① (医療保険制度)	①社会保障制度の中の位置づけを理解する。 ②医療保険制度と保険診療制度を理解する。 ③疾患別リハビリテーション制度を知る。			
6	地域理学療法の関連法規 ② (障害者総合支援法)	①障害者総合支援法の目的を理解する。 ②障害者総合支援法のサービスを理解する。 ③サービス利用の流れを理解する。			
7	地域理学療法の関連法規 ③ (介護保険制度①)	①介護保険制度の目的を理解する。 ②介護サービスの流れを理解する。 ③介護サービスの種類の概要を理解する。			
8	地域理学療法の関連法規 ④ (介護保険制度②)	①介護保険制度の目的を理解する。 ②介護サービスの流れを理解する。 ③介護サービスの種類の概要を理解する。			
9	地域理学療法の関連法規 ⑤ (介護保険制度③)	①介護保険制度の目的を理解する。 ②介護サービスの流れを理解する。 ③介護サービスの種類の概要を理解する。			
10	地域包括ケアの実際	①地域包括ケアシステムの概要を説明できる。 ②地域包括ケアシステムと理学療法の関連を知る。			
11	障がい者支援の実際	①障がい者支援における理学療法士の役割とその内容を理解する。 ②障がい者の地域生活支援を理解する。			
12	介護予防の実際	①NCD(認知症)予防、転倒予防の実際を知る。 ②介護予防における実践と理学療法士の役割を知る。			
13	事例検討	①症例を通して、地域における理学療法士の役割を具体的に知る。 ②症例を通して、地域における諸サービスのつながりを理解する。			
14	グループ発表	①症例を通して、地域における理学療法士の役割を具体的に知る。 ②症例を通して、地域における諸サービスのつながりを理解する。 ③発表を通して、地域理学療法の具体的方法を理解する。			
15	地域で働く理学療法士に必要な資質 (まとめ)	①他職種連携の重要性を知る。②コミュニケーション能力の重要性を知る。 ③制度を知ることの重要性を知る。④個々のニーズを理解する柔軟性と行動力の重要性を知る。			
教科書	書籍名		著者	出版社	発行年
	地域リハビリテーション学 第2版		重森 健太(編)	羊土社	2015
参考図書等	地域リハビリテーション論Ver.6		太田仁史(編)	三輪書店	2015
授業方法	講義・演習	成績評価方法	定期試験、提出課題、授業への取り組み方を総合的に判断し、評価を行う		
履修上の注意	授業前後で該当箇所について予習復習を行うことを奨励する。				

